

徳永 博正

大阪大学大学院医学系研究科精神医学 助教

高齢者の再認課題時の脳内活動：もの忘れの代償機構

軽度認知障害（MCI）の記憶障害とその代償機構の神経基盤を検討するために、機能的核磁気共鳴画像（fMRI）を用いた実験を行った。対象はMCIと健常加齢の高齢者それぞれ6人と5人。MCI群と健常群のMMSEの点数の平均はそれぞれ24点と29点。ウェクスラー記憶検査の遅延再生インデックスはそれぞれ57と106であった。再認課題には物品や景色の写真を用いた。fMRIの撮像前に提示した写真を、撮像中に再認できるかどうか判断するように被験者に求めた。無意味画像を用いた対照課題もおこなった。サブトラクション法にて再認課題では対照課題にくらべて、右中前頭回・右海馬傍回・右紡錘状回などの賦活がみられた。課題時の脳内賦活を、構造方程式モデリングを用いてMCI群と健常群の二群同時解析を行った結果、両群のパス係数には有意な差を示すものはみられなかった。MCI群でより強い結合がみられた場合に代償機構の神経基盤であると仮定したが、再認課題では明らかな代償機構は生じないものと考察された。